



沖繩戦後、集落地に米軍のボーロー・ポイント飛行場が建設され、一九四七年に帰住したが翌年には再接収され、住民は近隣集落への分散居住を余儀なくされました。そのため現在、コミュニティ活動の中心地となる公民館も長浜地番に位置し、住民はその周辺を中心に居住しています。飛行場は一九七四・一九七六年に返還され、土地改良事業による圃場の整備、農業関連の大規模な基盤整備が行われました。また、復帰先地公共施設整備事業が導入され、かつての儀間集落への復帰・帰住も進んでいます。



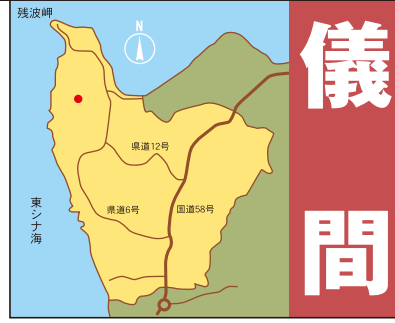
復帰後、軍用地返還跡地で西部連道地区土地改良事業、農産物集出荷貯蔵施設等の農業関連の基礎整備事業が行われ、同時に、かつての集落の復元のための儀間復帰先地公共施設整備事業が行われました。儀間は村内でも特に農業への取り組みが活発な地区です。土地改良事業によって大規模な基盤整備が行われ、一九九五年には長浜ダムより待望の灌漑用水が供用されました。これまでの花卉等の作目にリゾート関連での農業開発等に加え、新しい農業開発を進めています。



敬老会及び出産合同会



復活した伝統芸能「フェーヌシマ」



儀間

プロフィール

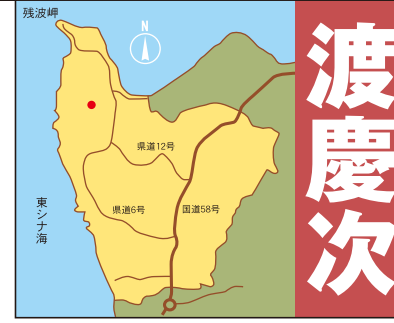
儀間(通称ジーマ)は文献上、『御当国御高並諸上納里積記』(一六八〇年)に初めて「儀間村」と確認でき、渡慶次から分村した集落とされています。儀間の元家である屋号「前宇座」や「儀間不動」は現在でも住民から尊ばれ、初御願などで拝されています。また、約一五〇〇から二〇〇〇年前と推定される二重兼久原貝塚、高知口原貝塚からは、当時の狩猟採集生活の跡として魚骨や獣骨、貝殻、貝製品が出土しており、古の時から貝塚眼前に広がるイノーを利用していたこの地に人々が暮らしていたことを物語っています。

よみがえった農地

復帰後、軍用地返還跡地で西部連道地区土地改良事業、農産物集出荷貯蔵施設等の農業関連の基礎整備事業が行われ、同時に、かつての集落の復元のための儀間復帰先地公共施設整備事業が行われました。儀間は村内でも特に農業への取り組みが活発な地区です。土地改良事業によって大規模な基盤整備が行われ、一九九五年には長浜ダムより待望の灌漑用水が供用されました。これまでの花卉等の作目にリゾート関連での農業開発等に加え、新しい農業開発を進めています。

受け継がれる儀間の芸能

儀間で昭和初期まで演じられていた南又島はその後途絶えていましたが、関係者の努力により一九九一年に約六〇年ぶりの復活を遂げました。現在では民俗芸能の「南又島」「仲里節」をはじめ、各団体の「エイサー」や「松竹梅」など芸能の継承、後継者育成に努めています。これまでの諸活動が評価され、二〇一三年には沖縄県文化協会賞を受賞しております。



渡慶次

プロフィール

渡慶次は、『おもろさうし』巻一五の六八に「とけす」とみえる古い集落で、『絵図郷村帳』(一六四六年)には「とけす村」とみえ、『琉球国高究帳』(一七世紀中頃)には隣村の宇座村(おさ村)と一括して石高を表記しています。なお、西隣の儀間村は当村から一八世紀初頭に分村したと考えられています。寛永一五年(一六三八)六月八日の金武朝貞外四名連署証状(旧記雑録)、正保四年(一六四七)八月七日の島津久慶・川上久国連署条書(旧記雑録追録)によれば、これより以前「とけす村之浜」に異国船から南蛮人が上陸。寛永一五年には浜に南蛮人が埋めた道具を長崎奉行衆へ届けるよう命じられた事が記されています。

この地域は米軍の沖繩上陸後ボーロー・ポイント射撃場として接収され、海岸部に飛行場が建設されましたが一九七六年に返還され、現在長浜川土地改良事業による圃場が広がっています。沖繩戦後は旧集落に復帰し、各種の伝統芸能が継承されてきました。集落形態も保たれており、隣接する儀間と一体的な道路網となっているのが特徴です。土地改良事業、農村基盤整備事業が実施され農業基盤、農村環境が格段

この地域は米軍の沖繩上陸後ボーロー・ポイント射撃場として接収され、海岸部に飛行場が建設されましたが一九七六年に返還され、現在長浜川土地改良事業による圃場が広がっています。沖繩戦後は旧集落に復帰し、各種の伝統芸能が継承されてきました。集落形態も保たれており、隣接する儀間と一体的な道路網となっているのが特徴です。土地改良事業、農村基盤整備事業が実施され農業基盤、農村環境が格段



農林水産祭 天皇杯を受賞

二〇〇五年、沖縄県で初めてとなる農林水産祭天皇杯を受賞しました。これは、ゆいまーる(協調・和衷・助け合い)精神の下、農業生産、伝統芸能、環境美化活動において、老若男女が一体となつて取り組み、多彩なむらづくりを展開していることが認められての受賞です。渡慶次ではみんなが力を合わせ地域活性化に取り組んでいます。

伝統文化の創造と世代結び

伝統芸能の継承、発展にはその担い手の育成が重要です。小学生から中学生まで参加する「渡慶次獅子舞クラブ」が活躍し、一九九九

に改善されました。近年は南側に住宅地が拡大しつつあります。

年博報賞を受賞するなど成果をあげています。渡慶次文化保存委員会は、これまでの諸活動が評価され二〇一二年に沖縄県文化協会賞を受賞しており、今後とも獅子舞や組踊等の伝統芸能、イサーヘイヨイ等の村芝居的な演劇、さらに途絶えている芸能の復活を軸に成年、青年、子どもたちの各々の活動に取り組んでいる地域です。



大川敵討一村原



松竹梅鶴亀



農林水産祭天皇杯受賞記念碑